

自動車部

クルマ愛あふれる自動車部の部員たちは、それぞれがメカニックでありドライバー。

ガレージに毎週集いクルマを整備しながら、決戦にはアクセル全開で野山を駆るレースを楽しんでいます。

**横転しても潰れない、
堅牢なクルマ作りからレースは始まる**



部が所有する軽自動車「プレオ」のエンジンルーム点検を行う浦野さんと金子さん。

多摩川にほど近い世田谷キャンパス18号館にガレージを構える自動車部。その歴史は古く、残る資料からは前身である武蔵工業大学の創立初期、昭和30年代には活動していたことが窺えます。現在部員は12人いて、それぞれがメカニックとドライバーを兼任。毎週水曜日にはガレージへ集い、来たるレースに向けてクルマの整備を行っています。

昨今主戦場としているレースは、群馬県の浅間火山の麓で開催される『浅間軽耐久シリーズ』。ドライバーを交代しながら5時間を掛けてオフロードを疾走する耐久レースであり、大学の部活動に限らずクルマを愛する腕自慢たちが集います。

自然吸気エンジンの軽自動車で競われるこのレースには、ほかにも車内に補強のロールバーを設置しなければならない

会計

理工学部
機械工学科 2年
金子慶次郎さん

副部長

情報工学部
情報科学科 2年
郷家幸成さん

部長

理工学部
機械工学科 2年
浦野良太さん

理工学部
機械工学科1年
米倉大生さん

理工学部
機械工学科2年
相澤晴哉さん

などのレギュレーションが定められており、部員はクルマをこれらに準拠させつつ、ベストな状態でレースに臨めるよう毎週整備に励んでいるというわけです。

「クルマの内装をはがして何もないドンガラの状態にして、そこにロールバーを組むのですが、組みあがるとこれが壮観なんです。今となっては日常ですが、最初の一台は特によく覚えていました」と語るのは、部員から“頼れる副部長”と評される郷家さん。ロールバーはコスト削減のために既成品に頼らず、パイプを買ってイチから組み上げるのだそうです。

「整備の経験がプライベートでも活きました」と教えてくれたのは、学生フォーミュラチームにも所属している“生粋のクルマ好き”米倉さん。聞けばマツダの『ロードスター』を中古で購入し、自らジャッキアップして車高を下げるチューンを施したのだそう。もちろん車検を通してのことですが、技術もさることながら、そのトライ精神には脱帽せざるを得ません。



内装をはがして、安全を守るロールバーを取り付けているところ。コストを削減するために、鉄パイプを切り出して自作します。

